

調査日：令和7年8月14日

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

<生育調査結果>

コシヒカリの生育は、草丈は昨年並みですが、茎数は少ない状況で、現在は登熟期間中です。

どんとこい・山田錦の生育については、草丈・茎数ともに昨年以上です。

品種	令和7年		令和6年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシヒカリ	115.5	16.7	117.1	22.4
どんとこい	101.5	29.6	86.5	21.0
山田錦	92.4	22.1	86.0	20.0

(1ほ場あたり10株調査)



<葉いもちが発生している状況>

<病害虫発生状況>

害虫：ウンカ類については、ヒメビウンカ、セジロウンカの発生が見られましたが、少ない状況です。

カメムシ類では、イネカメムシ、斑点米カメムシが発生しています。

病害：いもち病が一部圃場で見られました。今後の気温低下や降雨の影響で広がる可能性もあるので、多発しているほ場で薬剤散布がまだのところは防除をしましょう。

薬剤名	適用病害虫	10aあたり使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
トライフロアブル	いもち病	1,000倍希釈/60~150L 250倍希釈/25L	収穫14日前まで	散布	2回
ブラシンフロアブル		1,000倍希釈/60~150L 300倍希釈/25L	収穫7日前まで		

<今後の管理について>

コシヒカリは登熟期間中ですので、早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7~10日前まで適度な湿りを保ちましょう。

山田錦は出穂の時期を迎えます。出穂前後は最も水分を必要とする時期なので、湛水状態にし、その後は飽水管理を心がけましょう。収穫まで水が切れないような水管理をお願いします。

収穫時期の目安

<その他>

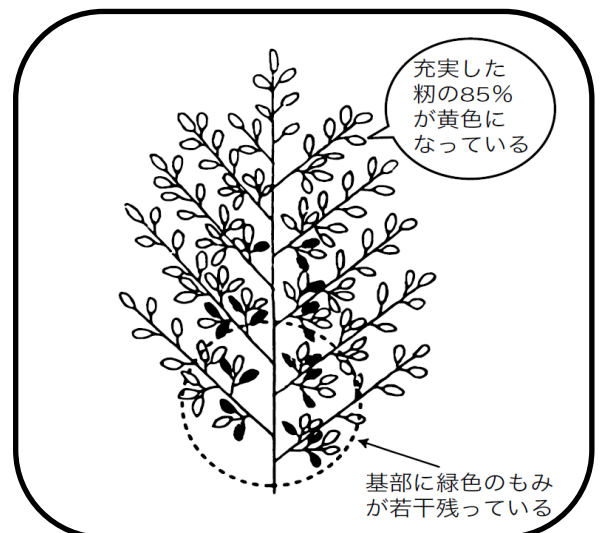
9月に入ると、コシヒカリの収穫時期になります。

平均的な穂の充実した籾の85%が黄化したときが刈取適期です。

早刈り、遅刈りを避け、適期収穫に努めましょう。

★刈取時期の判断方法

- ①平均的な生育の稲一株から、一番草丈の高い穂を1本とり、その穂をしごき、トレイ等(底が黒色がよい)に広げます。
 - ②不稔や奇形モミを除き、青モミと黄熟モミの粒数の割合を見ます。
- 刈取時期についてのご相談は営農相談員までご連絡ください。



調査日：令和7年7月31日

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

<生育調査結果と直近の管理>

コシヒカリの生育は、草丈・茎数ともに昨年より少なく、出穂期～穂揃期を迎えています。どんとこいは草丈・茎数ともに昨年より多い状況で、出穂直前～出穂期に入っています。出穂期～穂揃期ではごく浅水の湛水状態を維持してください。登熟期からは飽水管理を実施しましょう。山田錦の生育については、草丈・茎数ともに昨年より多いです。幼穂形成期に入っていますので、水利状況を踏まえながら、飽水管理に切り替えましょう。

品種	令和7年		令和6年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシヒカリ	102.2	17.0	115.4	21.6
どんとこい	96.0	30.7	84.0	21.4
山田錦	78.0	23.8	74.5	21.6

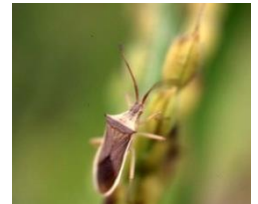
(1ほ場あたり10株調査)



イネカメムシ



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

<病害虫発生状況>

病害:いもち病が一部ほ場で見られました。出穂前の防除がまだのところ、葉いもちの発生が多いところは、穂いもちへの移行を防ぐため必要に応じて薬剤防除を実施しましょう。

害虫:ウンカ類では、セジロウンカ・ヒメビウンカの発生が見られます。空中散布での防除を実施した圃場では、若干見られる程度ですが、今後も注意が必要です。(県の発生予想ではやや多いとされています。)

斑点米カメムシ類について

兵庫県病害虫防除所より、斑点米カメムシ類の注意報が発表されました。三田市内や他地域でも多数のイネカメムシを確認しています。

三田地域では、空中散布での防除を随時実施していますが、1回目(キラップフロアブル)の散布後1週間～10日後に、まだカメムシ類が見られる場合はスタークル粒剤(3 kg/10a)の散布を推奨いたします。

1株で多発している
イネカメムシ



<今後の管理について>

コシヒカリは出穂期～穂揃期です。生育ステージに合わせた水管理(湛水管理)を徹底しましょう。山田錦は穂肥散布時期(分施型)が近づいています。ほ場での幼穂の長さを確認し、適期施用を行いましょう。出穂期前後は特に水を要する期間ですので、飽水管理を行いましょう。

～高温対策～

令和7年度も観測史上最も早い梅雨明けや日平均気温の高さから、ここ数年以上に高温対策が求められます。高温対策については別紙「水稻の高温対策について」を参考に対策を実施しましょう。

①耐暑肥…出穂5日前を目安に有機入り化成 242 を 8～10 kg/10aを施用しましょう。

②水管理…水温や地温を下げる対策として、地域の水利状況を踏まえ、できる範囲で夜間かけ流しや気温の低い朝夕に水を入れ替えを実施しましょう。

水稲の高温対策について

作成：J A 兵庫六甲

監修：神戸農業改良普及センター

阪神農業改良普及センター

令和7年も観測史上最も早い梅雨明け（気象庁より）となり、日平均気温も高いことから、ここ数年以上に高温対策が求められます。生育が前倒し傾向であるとともに、高温対策として有効とされる対策についてまとめておりますので、参考にしてください。

①耐暑肥（たいしょごえ）について

耐暑肥とは・・・高温により不足する養分を出穂前に補う施肥のこと

※分施肥体系と省力体系（一発肥料）のいずれでも有効です。

出穂期における追肥が、白未熟粒（基部未熟、乳白等）の品位改善に有効であるとされており、他県では高温対策として試験が進んでおります。

<耐暑肥の施肥目安>

時期：出穂5日前 肥料：有機入り242

施肥量：8～10kg／10a（窒素成分1kg程度／10a）

※過剰施肥は食味低下を招く恐れがありますので、ご注意ください。



②水管理について

・飽水管理で水温や地温を下げる品質向上を目指しましょう。

今年の気温は平年より高く、ほ場内の水温や水温も高くなっています。高水温は水稲の生育に悪影響を及ぼすため、「夜間かけ流し」が有効ですが、都合で実施できないところも多いと思われます。

そこで、気温の低い朝夕に水を入れ替え、地温や水温を下げ、常にほ場を湿った状態に管理する飽水管理（間断灌水）を実施し、良食味米生産につなげましょう。

調査日：令和7年7月10日

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

<生育調査結果と直近の管理>

コシヒカリの生育は、草丈は昨年より短く、茎数は昨年並です。どんとこいは草丈は昨年並みですが、茎数が多くなっています。どちらもすでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、間断灌水で管理を行ってください。

山田錦については、草丈は昨年並み、茎数は昨年より多いです。中干し時期に入りますので、早めに圃場を確認して、1週間～10日程度実施しましょう。

品種	令和7年		令和6年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシヒカリ	74.1	20.4	81.5	21.8
どんとこい	67.2	36.3	65.5	17.1
山田錦	51.5	34.0	50.0	22.0

(10株調査 1ほ場あたり)

<病害虫発生状況>

病害：一部圃場でいもち病の病班を確認しましたが、少ない状況です。

害虫：ウンカ類の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程ではありませんでした。一部圃場ではカメムシ類の発生を確認しています。出穂時に被害を受けると不稔となりますので、注意が必要です。

<今後の主な病害虫防除について>

【カメムシ類】

既に管内でも発生が確認されていますので、品質維持のため、対策を徹底しましょう。

出穂の2週間前までには畦畔などの草刈を終えるようにしてください。出穂期に畦畔刈を行うとカメムシ類を本田に侵入させることになり、斑点米の原因となりますので、下記薬剤を参考に防除してください。薬剤の種類によって使用時期が異なりますので、登録内容を十分確認しましょう。

薬剤	使用量 (/10 a)	散布時期
キラップ粒剤	3kg	出穂10日前～出穂期
スタークル粒剤	3kg	出穂5日後

△ 三田ではイネカメムシ対策として、空中散布での2回散布を推奨しています。個人散布の方はJA兵庫六甲暦を参考に防除をしてください。

<今後の管理について>

【出穂前後の水管理】

中干しが終わったら幼穂形成期に入り、飽水管理を行います。ただし、出穂開花期とその前後は水を多く必要とする時期のため、湛水管理をしましょう。

【雑草対策】

雑草・藻の多発田では、肥料分が吸われてしまったり、水稻の生育を抑制するので対策をしましょう。

《一年生雑草及び多年生広葉雑草多発におすすめの中後期除草剤》

☆アレイル SC(収穫45日前まで、出穂始期15日前まで) 湛水散布または落水散布

☆ゲパード(1キロ粒剤・ジャンボ)(収穫60日前まで) 湛水散布・水田にそのまま投げ入れる

日中の作業はできるだけ避け、水分補給をしっかりと行い熱中症防止に努めましょう！

調査日：令和7年6月26日

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

<直近の管理>

コシヒカリは既に中干しの時期に入っています。茎数が16～17本/株程度確保出来ていたら、天候を見て1週間～10日間程度実施してください。

山田錦についても中干し時期が近づいていますので、タイミングを逃さないよう、時期の再確認をお願いいたします。

<病害虫発生状況>

病害：特に目立った病害の発生は確認されませんでした。 ※一部葉いもち病班が確認されています。

害虫：雨の為、害虫の調査は実施できませんでした。 ※北部の一部地域ではイネドロオイムシの発生が確認されています。

★今年には兵庫県病害虫防除所より「ヒメビウンカ」、「いもち病」の発生予想は「平年並」と予想されています。

<今後の主な病害虫防除について>

薬剤名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
なげこみ トレボン	イネミスゾウムシ	水溶性容器4～6個 (200～300mL)/10a	5葉期以降 収穫21日前まで	3回以内	本田に 水溶性容器 のまま投げ 入れる。
	イネドロオイムシ				
	ウンカ類	水溶性容器10個 (500mL)/10a			
	ツマグロヨコバイ				
	コメイチチュウ第1世代				
	イナゴ類	水溶性容器6～10個 (300～500mL)/10a			
イネクサカメムシ					

※イネドロオイムシについては加害最盛期被害葉率20%以上で防除が必要となります。

<雑草対策について>

広葉・イネ科雑草がたくさん発生している場合は下記防除が必要です。

薬剤名	10aあたり使用量	散布時期	使用方法	総使用回数
クリンチャー バスME液剤 (移植水稻)	薬：1,000ml	田植え後15日～ ノビエ5葉期 (但し収穫50日前まで)	落水散布又は ごく浅く湛水して散布	2回以内
	水：70L～100L			

<今後の管理について>

【中干しとその後の水管理】

深水を避けた浅水管理にして、茎数が目標の80%に達したら中干しに入ってください。中干しにより無効分げつを抑制し、粒張りを確保しましょう。さらに、中干し終了後は足跡に水がたまるくらいの飽水管理をできる範囲で行い、根の活力を維持しましょう。ただし、幼穂形成期(出穂30日前)には中干を終えるようにしましょう。